

藤野健司

永遠の音色

久しぶりに会ったのは 今年の冬
何も食べてへん 助けてと

一緒に買い物に行ったら
たくさんの物を嬉しそうに抱えてた

奴は幼なじみ
確か 学校の先生をやってたと聞いた

辞めてからは家にこもり 数十年
唯一の身寄りの 兄も亡くなり

一人で困窮した

先月 なんか体調が悪いと
病院行けと言ったら「病院は好かん」
一緒に行って薬買うた

その翌日やった 連絡がないので 家に行ったら
風呂場で 力尽きておった

火葬に付き合ったのは 俺だけ
奴の家には ピアノが一台

先生やったから 練習していたのやるな
よく手入れされていた ピアノやった

おまえとは小学生ん時以来会ってなかったけど 最後によく俺の
ところに来てくれた

買い物行った時の 嬉しい顔 忘れんぞ

おまえの ピアノ 聴きたかった

そんなに急いで 逝かんでも よかったやないか

おまえのことは 俺が 忘れへん

そうすれば お前はずっと生きてることになるからな